

1-2

演題	施設で最期を迎えることの意義
副題	～身寄りのない入居者様のお看取り～

法人名	社会福祉法人 珀寿会
施設名	秦野陽光園

発表者名 (職種)	野下 惇 介護職員
共同発表者	菊池 啓規
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	秦野市曾屋 1177-1
TEL	0463-72-7642
FAX	0463-72-7643
メールアドレス	spmt4hv9@yahoo.co.jp
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	秦野市内にある定員 100 名のユニット型特別養護老人ホーム。北に丹沢山系を望む。併設にはショートステイ、デイサービス、居宅介護支援事業所があり、総合的な介護相談窓口としての役割も担う。開設 11 年目、秦野市曾屋 1177-1。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

- ・ 2040 年問題 独り身の高齢者が増えることが明確である。特養では看取り介護が行われ、この先ご家族の支援も徐々に限られてくることが考えられる。すでにご家族の支援が少ない入居者様もいる。看取り介護のポイントを紹介しつつ、今後を見据え問題提起する。

取り組んだ課題

- ・ ご家族の支援を受けられるケースの状況を整理
- ・ 一方、ご家族の支援が限られるケースも対比として状況整理
- ・ 限定的な支援の場合、施設としてできることは何か見出す

具体的な取り組み

- ・ 看取り介護としての対応
①毎日血圧測定②部屋移動、ステーションの近くにすする③むせ注意：誤嚥の危険性を鑑み口腔ケアはウエットティを使用④食事の少ない入居者様に工夫して提供⑤居室環境の整備、ご家族からの提供品を居室内に設置・ベッドの配置を工夫⑥ご家族に趣向品などを依頼・・・お酒、水分ゼリー、高カロリーゼリー、口腔ケアウエットティ、アイス、音楽(民謡などの CD)
- ・ 看取り期となった、高齢の妹様しかいない入居者様への支援①厨房からプリン、とけないアイスを提供②医療保険からエンシュア、プロペトを処方③エアーマットの使用④施設持ちのクッションを使用して褥瘡予防も想定

活動の成果と評価

- ・ ささやかではあるが、お酒をガーゼに湿らせて口腔内で味わっていただいた。ご本人がそれで満足いただけたか、確認できなかったが、施設内での意識が変わった。最初から無理とせずに、方法を探っていき実現できることもあると認識できた。ご家族にも喜んでいただけた。
- ・ 看取り介護は施設内で定着されている。特養の大きな役割の一つで、地域の期待に応えるはたらき

である。その意義が職員間で芽生えている。

- ・ 徐々にではあるが、今後身寄りのない入居者様のお看取りをする時の経験値となった。

今後の課題

- ・ 施設内外に諸問題あり
①身寄りがなくご本人の意思も確認できない状態で、施設が思い通りにやって良いのか②財産などを一部預かり、必要物品を購入することはできる。しかし、だれがそれを承認してくれるのか。また、それは合法なのか。③低年金の入居者様もいる。貯蓄が少ない場合のやりくりはどうするのか。④ 2040 年に高齢者の年齢に達する人たちは就職氷河期である。所得が少なく、やはり低年金が想定される。施設入所自体、困難とされる。⑤施設の持ち出しで増える独り身の入居者様をどこまで支えられるか。